



インコの独占インタビュー

10・6東京地裁裁判員裁判候補者Aさん

激白 私は人を裁きたくない…裁判員制度は間違っている
大運動に勇気づけられた！みなさんにも拒否を呼びかける！！



10月20日、インコはAさんに独占インタビューを敢行！

裁判員候補者は東京地裁に呼び出された中で、何を思い、何を見たのか？！そこから浮かび上がる問題
インコ通信では、これを3回に分けてお送りします、

–忙しい中ようこそ。早速ですが、大運動のピラを見てご連絡くださったとか

はい、雨の中で受け取りました。入り口(地裁)で没収されたいけないと思い、急いでお腹の中に隠しました。雨で文字もにじみ、ぼろぼろになっていますけど、大切にしています。

–ありがとうございます。ところで、これが最高裁からの裁判員候補者名簿登載通知ですか。

そうです。最高裁判所と大書された封筒が無造作にマシンの郵便受けに入っていたのです。ご近所には、私が候補者に選ばれたことはわかってしまいました。封筒の中のパンフレットには「候補者になったことを公にしたいけない」とありましたが、最高裁自身が公にしたようなものです。

–無神経な送付の仕方をして、市民には厳しく要求をするということですね。そして呼び出し状が届けられた。

見た途端、「赤紙が来た」と思い、ぞっとしました。

–地下鉄サリン事件に遭われ、霞ヶ関に来るのは大変だったそうですね。

「PTSD だから行けない」とも言えません。無理して行ったのですが…

100人が対象のはずなのに、60人分しか席が用意してありませんでした。椅子に番号が振ってあるので間違いありません。空席が目立ちましたので、実際には何人来たのでしょうか…

–呼び出し状が送られたのが58人でしたが、その後、事情を言って出頭を免れた人が15人、43人が出頭することになりました。しかし、実際には38人しか出頭しませんでした。マスコミは38/43で88%の出席率と報道していますが。

でも、100人が対象なら、出頭率は38%ですよ。

–マスコミは、高出頭率と報道しています。

都合の悪いことは報道しないようです。私は記者会見で「人を裁きたくない」と訴えたのに、そのこともほとんど報道されませんでした。

(次号に続く)

= 悪の枢軸ついに謝罪、じゃないよね？ =



「法の日」を迎え、記者会見する(左から)宮崎誠日弁連会長、樋渡利秋検事総長、山崎敏充最高裁事務総長＝1日午後、東京・内幸町の日本記者クラブ

裁判員裁判で国民のみなさまに多大なご負担、ご苦勞、ご心痛をおかけしたことを心から謝罪いたします。

なんて言っている訳ではないのですよ。この悪の枢軸は(´◇｀)；

山崎最高裁事務総長「大変よいスタートがきれた。選任手続きの参加率が高い」

* 高い出頭率を演出してるんやもんね。

樋渡検事総長「裁判員の良識や崇高な使命感に圧倒される」

* こんなんで圧倒されたって…検察官には良識も使命感もなかったってことやなあ～

宮崎日弁連会長「弁護士のスキルが量刑に影響したのではと思われる裁判があった」

* スキルの問題やないやろ。「構造的に弁護士は手も足もでない」となんで言えへんのかな

こういうのを、いけしゃあしゃあとまあ…と言うねんな。ほんま、しゃあしゃあと。しゃあ？

シャア・アブナイズル「認めたくないものだな。自分自身の権力ゆえの過ちというものを」

(出典：インコ・ガントム「サイト7 攻撃」)